



MGU Chapel Letter

—第 34 号 2024 年 2 月 6 日— 発行：大学宗教センター



* 2023 年度聖句 *

「あなたがたの内に働いて、御心のままに望ませ、
行わせておられるのは神であるからです。」

フィリピの信徒への手紙 2 章 13 節



**2023 年度後期の礼拝は 1 月 19 日で終了しました。
3 月 15 日（金）10 時から、礼拝堂で卒業・修了礼拝
が行われます。**

令和 6 年能登半島地震被災者支援のための 募金協力に感謝します

1 月 1 日に発生した能登半島地震は、240 名の死者、住宅被害 4 万 7904 棟（2 月 1 日現在）を出す悲惨な事態となっております。

1 月 9 日から 31 日まで、宮城学院でも被災者支援のために募金を行いました。集まった寄付は、現地の支援窓口として活動を展開している北陸学院キリスト教センター、被災した 2 つの幼稚園を擁するキリスト教保育連盟北陸部会能登地区へ送金する予定です。

復興のためには、持続的なサポートが必要になります。今後とも現地の状況を注視し、協力できることを考えて行きましょう。

【連絡先】 宮城学院キリスト教センター

TEL : 022-279-9558

Email : christ-c@mgu.ac.jp

✦ 善いサマリア人の話：別の読み方 ✦



新約聖書・ルカによる福音書 10 章 25～37 節にある「善いサマリア人のたとえ」は、皆さんご存知ですね。一度は、大学礼拝やキリスト教科目で聞いたことがある筈です。この話では、強盗によって半殺しにされた旅人を、通りかかったサマリア人が助けます。「行って、あなたも同じようにしなさい」と教える、イエスの有名なたとえ話です。

この話を読む時、私たちは通常、サマリア人の立場に自分を置くのではないのでしょうか。彼がしたように、苦しんでいる人の「隣人」となるために自分は何ができるのか。そのように考えるのが、一般的な読み方です。

ところが。フランスの精神分析医フランソワーズ・ドルト（1908 年～1988 年）は、幼い頃からこの話について、少し異なる理解をしていたそうです。彼女は、まず旅人の身に自分を置いていたというのです。

ドルト曰く。サマリア人に助けられた旅人のように、私たちも、自分を支えてくれた多くの人々の親切によって、今こうして生きている。「ひとりでは道を続けて行くことのできなかつたとき私たちを助けてくれた」彼らは、サマリア人と同じように、必要な助けを与えた後は静かに去って行った。こうした助け手への感謝の念から、自分も、人生で出会う他の人に手を貸して行こう。そのようにドルトは考えます。

この読み方も、確かに一理ありますね。今の自分は、独りで出来たものではありません。私たちのことを何気なく支えてくれた、多くの人の行いがあったために存在するのです。自分は、多くのつながりの中で生きて来た。そう考えると、私たちもサマリア人のように行動したいと願うようになります。

能登半島地震の映像を見て、13 年前の東日本大震災を思い出した人も多かったと思います。震災後、私たちは、全国からの支援に励まされながら立ち直って来ました。今度は私たちも、能登の被災者のために自分ができることを果たして行きたいと思います。

復興には、相当長い年月を要することが予想されます。世間の関心が薄れた時が、被災者にとって最もサポートを必要とする時です。長いスパンで支援をして行くために、何が必要となるか。真剣に考えましょう。

(栗)

